

峯 順三議員

(主な質問)

・現在運行している市内循環バスは、九月までしか予算計上されていない。九月までに結論を出すのか、結論が出ない場合一旦廃止するのか、それとも継続したままで代替案を模索するのかどうかを伺う。いずれの場合も財源の確保が必要となるがこの点の考えはどうか。

(答弁)

・市内循環バスについては基本的に継続させる方針であり、このためその方策について早急に結論を出すべく検討をしているところである。

一つの方法としては騎西町が、自宅から目的地まで送迎するデマンド方式に従来の循環方式を組み合わせた形で行っているの、実施方法、事業者選定、運行経費等の調査をし、羽生市で取り入れられるかどうか研究しているところである。またその他の方法についても、運行車両の小型化等による経費の節減など再検討を加え、何らかの代替

策を見つけていきたい。

当初予算は九月分までの計上となっているが、補正予算での対応を検討している状況である。

齋藤 隆議員

(主な質問)

・委託業務を見直して自給自足を目指すとのことだが、今日まで委託業務の推進が図られてきたのは二つのことを目的としていた。一つは時間的削減を図ると同時に質の向上を目指すこと、もう一つは経費の節減である。表面的には時流に逆行する行為に映るがその真意を伺いたい。

(答弁)

・平成十八年度予算において、委託料総額は約二十一億二千九百万円であり多種多様な事業を業務委託により行っている。この中には委託をせずに現在の市職員で直接できる業務があるのではないかと、直営で行うことにより委託料の削減を図ることができるのではないかと考えるものである。このため早急に市役所が委託している全ての業務調査を

行い、職員自らが行うことが可能なものを洗い出すとともに、職員の人件費と委託料について十分経済比較を行って、専門性・市民サービスの向上など総合的な視点から直営か委託かの判断をし、職員ができるものは職員で行うということを進めてまいりたい。

藤倉宗義議員

(主な質問)

・市単独でゴミ焼却炉を建設することに關して、人件費も含めた維持費の点からもコスト削減のためには、やはり広域行政や合併が効果的であることは論を待つものではない。加須市の焼却炉は他市のゴミを受け入れる余力があるともいわれるが、加須市との広域協議を行っていく考えがあるのかどうか伺う。

(答弁)

・ゴミ処理の広域化は、ゴミ処理費の縮減や環境への負荷軽減など多くのメリットがある。加須衛生施設組合の焼却施設は平成十年に運転稼動したもので処理能力は一日百四十

四トンである。平成十六年度における同施設のゴミ処理量は、一日当たり約一〇三トンなので計算上は余力がある。しかし、構成市町の将来のゴミ排出量を推計して規模改定していることから、近い将来ゴミの搬入量が増え、処理能力に余裕がなくなることが見込まれ、当市のゴミを受け入れることは困難と考える。従って現段階では、単独によるゴミ処理施設の整備計画を推進していきたい。

小野幸夫議員

(主な質問)

・私は従来より、LD(学習障害) ADHD(注意障害・多動性障害)、高機能自閉症等の児童・生徒に対する特別支援教育に注目している。本市では進んだ自治体と違い、保護者が非常に困っていると考えている。市内の学校の教師がこのことについて、勉強できる環境づくりは大切であると思う。研究所や支援団体もあるが、そういう所と共同支援の考えがあるかどうか伺う。

(答弁)

・特別支援教育は、ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進という県の重点施策であり、学校教育法施行規則改正の趣旨を踏まえた支援のあり方が求められている。羽生市の教育委員会では本年度、軽度発達障害等の支援のためにマニュアル作成委員会を発足させたところである。これまでも各種の校内研修や教育研究大会において専門的知識を持つ先生方の指導を頂いているが、今後も関係機関や研究者等の連携を密にしな

がら、羽生市の実態を踏まえ、より良い具体的な支援方法を十分研究するとともに、心のバリアフリーに向けて発達障害児への理解と支援を推進していきたい。

岡戸 稔議員

(主な質問)

・地方自治体の財政の運営は今後大変厳しいものがあり、合併は避けて通れない、あるいは進めなければならぬと考えられる。市長は合併問題について、埼玉県市町村合併推進構想に基づき、北埼玉地